

1 学期終業式

みなさん、おはようございます。

暑さ対策のため、3年1組はLL教室で、他のクラスはHR教室での終業式としました。連日、非常に暑くなっております。この夏も暑さ指数が33に達するような日があると思います。夏季休業中も課外や部活動などがありますが、登下校も含めて、十分注意してください。

この4月から7月までの期間、それぞれ、いろいろなことを経験したと思います。また、同じ出来事に対しても、人によって、感じたことは違うと思います。本日で、1学期が終業となりますが、明日からの夏季休業中も、希望進路の実現に向けた学習、オープンキャンパス、部活動などの取組があります。全国大会や海外留学を控えている人もいます。また、7月30日、31日には、中学生を対象とした西高体験セミナーがあり、おもてなしボランティアとして、お手伝いをしてくれる人もいます。暑い日が続きますが体調管理を怠らず、やりたいこと、やるべきことに時間を割けるようにしましょう。

さて、SNSの普及により、非常に便利な時代となっております。誰もが様々な情報を簡単に手に入れることができます。ここで大切なのは、簡単に手に入れた情報が本当に正しいのか、正確なものなのか、きちんと評価する慎重な姿勢です。「疑う力」「信じない力」が大切なのです。自分が直接経験したこと、見たこと以外は、伝聞であって、本当に正しいかどうかすぐには分かりません。もちろん、正しいかどうかを確認する術のない情報もあり、すべてを疑い、信じないというのは現実的ではありませんが、簡単に騙されない姿勢を大切にしてください。こういった考えは、最近になって突然出現したものではありません。70年以上前に中学校と高校で使われていた社会科の教科書にも、「真実を見つけ出す習慣を」「先入観を取り除く」「情報がどこから出ているかを知る、そのまま信じ込むことは、愚であるばかりか危険である」「利己的な動機が隠されていないか」「標題を見ただけで早合点してはいけない」とあるそうです。もちろん、今、私が話しているこの話を疑うことも大切です。

私が皆さんに伝えたいのは、情報や意見を受け取ったときに、それらを鵜呑みにするのではなく、より良い意思決定のための批判的思考、クリティカルシンキングを意識してほしいということです。

話は変わりますが、先日、西舞鶴高校を昭和63年に卒業され、現在は、Texas A&M Universityで研究員をされている真下朋之さんとの座談会が、オンラインで実施されました。時差がある中、真下さんは西高生のために夜遅い時間に対応してくださいました。この会では、真下さんがお話になったことはもちろんですが、参加した西高生の発言が印象に残りました。どんな発言かと言うと、「自分は勉強が好きである。」というものです。私は、そのまま受け取るのではなく、「いろいろなことを知ること、できるようになることが好きである、楽しい。」と解釈しました。西舞鶴高校は、そういった姿勢を持つことを大切にできる雰囲気のある学校だと思います。知識や思考力などを身につけるための他者の努

力に対して、敬意を払える生徒が集う学校だと思います。みなさんが、いろいろなことを身につけ、成長し、どれぐらい先のことになるか分かりませんが、真下さんのように後輩のために力を貸してくれたらと願っております。

この夏に開催されるパリオリンピックには、西舞鶴高校を平成26年3月に卒業された井上愛里沙選手が、女子バレーボール競技に出場されます。西舞鶴高校では、1936年にベルリンオリンピックの棒高跳び競技に出場され、友情のメダルで有名な大江季雄選手に次ぐ二人目のオリンピックとなる快挙です。この夏、オリンピックパラリンピックで興味のある競技を観戦すると思いますが、感じ取った勇気や感動を今後の高校生活、人生の糧として欲しいと思います。

この1学期、いろいろなところで、西高生の活躍を見てきました。限られた範囲ではありますが、部活動の公式戦も見せていただきました。良かったこともありましたが、悔しい結果もありました。もちろん、感動したこともたくさんありました。2学期も期待しています。健康にはくれぐれも気をつけて、充実した夏休みを過ごしてください。

令和6年7月19日

京都府立西舞鶴高等学校 校長 田邊仁司